

# 平成30年7月豪雨 早稲田学区 被災状況と災害対応の記録

〔記録：平成30年12月 早稲田学区自主防災連絡協議会〕

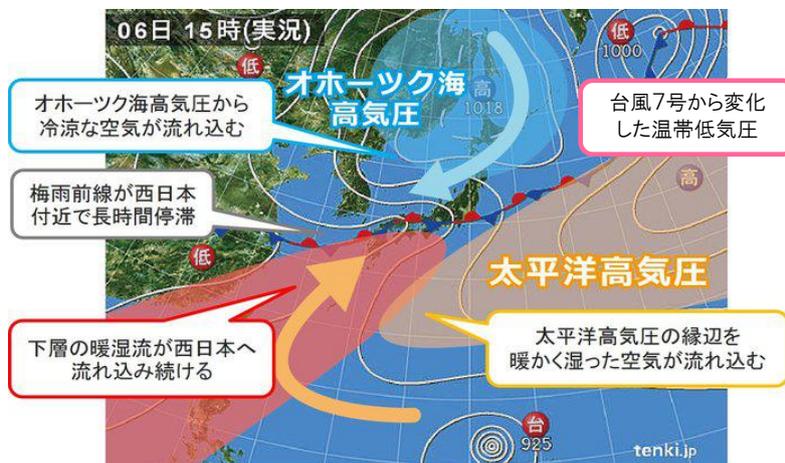
## 1. 気象情報

### ●平成30年7月豪雨の発生原因

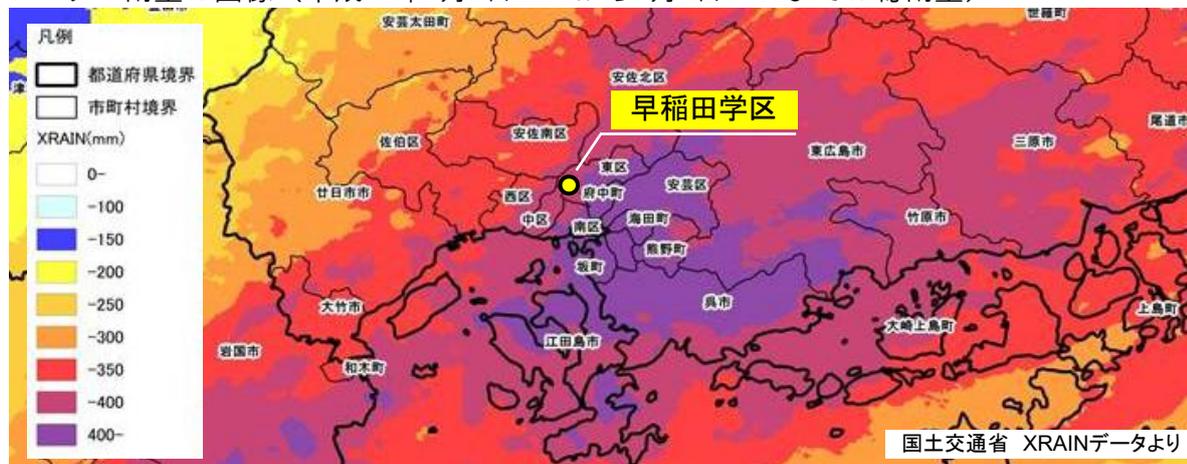
7月3日に五島列島を通過し日本海を北上した台風7号は、4日に日本海で温帯低気圧に変わった。この台風の通過後、5日から8日かけて梅雨前線が西日本に長期停滞し、前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み続けたため、広範囲で大雨が続いた。

この梅雨前線による大雨で、広島市では7月5日から7日にかけて累計400mmを超える雨量を記録し、さらに時間雨量が40mm以上の強い雨が降った地域を中心として、土砂災害が多発した。

気象情報解説図  
(tenki.jpより引用)



### ◇レーダー雨量の画像（平成30年7月5日9:00から7月8日0:00までの総雨量）



### ◇温品雨量観測所のデータ（7月5日9:00から7日12:00まで）

※牛田早稲田雨量観測所のデータは広島県のシステム異常により公式記録なし



## 2. 早稲田学区における避難情報ほか

7/5 (木)	9:20	広島市に「大雨警報」が発表
7/6 (金)	14:05	広島市に「土砂災害警戒情報」が発表
	14:20	早稲田学区に「避難準備・高齢者等避難開始」が発令 早稲田集会所が避難所として開設
	14:30	早稲田学区に「避難勧告」が発令
	18:03	早稲田2丁目の観音寺下でがけ崩れが発生
	19:40	広島市に「大雨特別警報」が発令
	20:20	早稲田学区に「避難指示（緊急）」が発令
	20:40	早稲田公民館が避難所として開設
	23時過ぎ	牛田東4丁目町内会①組、大学敷地内で土石流発生 ※聞き取りにより推定

## 3. 早稲田学区内の災害発生箇所

①土石流災害 災害発生箇所 垂直写真（国土地理院 7月9日撮影）



②がけ崩れ 災害発生箇所 垂直写真（国土地理院 7月9日撮影）



#### 4. 災害発生状況の詳細

##### (1) 牛田東4丁目の土石流災害

牛田東4丁目では、大学敷地内に流れる2つの溪流で土石流が発生。207溪流では、一般家屋4軒が被災し、1名が7月6日深夜から7日昼過ぎまで一時孤立した。898溪流では、流出した土砂が大学施設に流入し、一部損壊が発生した。



①大学前交差点

雨上がりでも道路には川の様に水が流れる



②大学正門裏

正門で引っかけた流木等により背後には土砂が堆積



③大学敷地内の河川護岸

今回の土石流により護岸が損壊し流出している



④大学 自転車置き場

大学内の水路が閉塞し、溢れた土砂が40cmほど堆積



⑤ゲーンズチャペル前水路

流木が橋で詰まり、土砂が溢れ出している



⑥ソフィア館脇の市道

奥の家屋に通じる道路は、流木などで完全に塞がれている



(→ 次ページに続く)

⑦被災したMさん宅  
1階部分が一部損壊。宅内には  
大量の土砂が流入した



⑧被災した家屋  
土石流の影響を一番受けた家  
屋は倒壊している



⑨被災箇所付近の治山えん堤  
治山えん堤がある溪流は土石  
流が発生しなかった



⑩被災したSさん宅ほか  
Sさん宅は1階部分がえぐられ損  
壊。



⑪被災家屋付近の巨石  
被災家屋近くには、1.2m径の巨  
石や流木が流れてきていた



⑫災害で発生した流木  
高さ10m程度、根径5m程度  
の流木が横倒しになっている



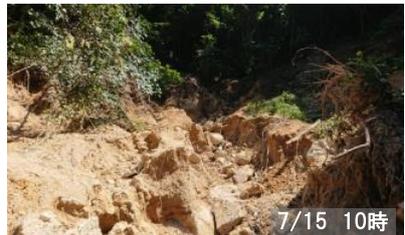
⑬土石流脇の家屋  
土石流の痕跡から10mほどの  
空き屋は無傷で残っていた



⑭土石流区間の上流部  
幅10~20m、土砂厚30cmほど  
の不安定土砂が残っている



⑮土石流発生箇所の源頭部  
土石流が発生した箇所。かなり  
急勾配な斜面になっている



⑯大学施設内の被災状況  
大学ホールは土砂が流入し窓  
枠が損壊するなど被害が発生



⑰溪流の状況  
災害発生から1週間後でもそれ  
なりに水量がある溪流



⑱土石流の流下区間  
不安定な土砂が幅20m、厚さ  
30cmほど残る区間



⑲土石流区間の巨石  
898溪流にはあまり巨石が確認  
されず小ぶりなものがほとんど



⑳土石流発生箇所の源頭部  
898溪流の土石流跡の源頭部



## (2) 牛田早稲田2丁目のがけ崩れ災害

牛田早稲田2丁目の市道東4区41号線（通称：神社通り）では、7月6日（金）の18時03分に、牛田山観音寺の下にある石積み擁壁が崩れ、市道が長さ20mほど土砂で塞がれた。この災害により、市道が約1週間通行止めとなった。



### ① がけ崩れ直前の状況

崩れる約1分前の状況。泥水が石積みの間から染み出し、砂が流れ出している。



### ② がけ崩れ直後の状況

石積みが崩れてから3分後の状況。バイクは歩道を通って通過した。



### ③ 崩れた翌日朝の状況

災害発生翌朝には、水が引いていたが、崩れた石積みと土砂が市道をふさぐ



### ④ がけ崩れ箇所の応急対策状況

災害発生から約1週間後の7月12日、崩れた箇所に土のうを詰め、その上からブルーシートを張る応急対策工事が行われ、市道の通行止めも解除された。



## 5. 避難所の運営

### ① 避難所の開設と運営状況

		7月6日(金)		7日(土)		8日(日)	9日(月)
		(午後)	(夜間)	(午前)	(午後)		
<b>早稲田集会所</b>							
避難所開設		14:25 開設					14:00 閉鎖
避難者		35名			0名		
区役所職員		2人		2人		2人	2人
地域スタッフ		5～6人		7～8人			5～6人
避難所運営	西田 西本 荒巻 吉岡 長田 宮原	→		→		女性会 などの ボラン ティア	女性会 などの ボラン ティア
<b>早稲田公民館</b>							
避難所開設			20:40 開設		昼過ぎ 閉鎖		
避難者		14名					
区役所職員		1人		0人			
地域スタッフ		1人					
運営	長田 宮原 山崎	→		→		→	

### ② 避難所運営で評価できるもの

#### 1) 迅速な開設体制の確保（早稲田集会所）

避難所として使用する早稲田集会所を開ける要員について、地域に2名常駐できる体制を確保しており、避難情報が出てから10分以内で避難所が開設できた

#### 2) 避難者の事情に合わせた居住環境の確保（早稲田集会所・早稲田公民館）

集会所は1階（ホール）と2階（小部屋）、公民館は各研修室など部屋単位で避難者を区分し、心の病のある家族のいる避難者、ペット連れの避難者などに対しては、専用室で避難してもらうことで避難しやすい居住環境が確保できた

#### 3) 良好な避難所運営体制の確保（早稲田集会所・早稲田公民館）

避難所運営の核となる主要要員がすみやかに集まるとともに、避難所の近隣住民の方が、避難所運営スタッフの食事の用意などの手伝いを協力してくれたので、良好な避難所運営体制を維持できた

#### 4) 関係各所との情報交換、連携

災害発生により孤立した住民の存在を把握した際に、消防署への救助要請を行い速やかな救助につなげるなど、関係各所との連携が図れた

#### 5) 朝食の提供（早稲田集会所・早稲田公民館）

7日の朝は公的な食料配給が無かったが、地域の協力により食材を持ち寄って朝食を提供することができた。

### ③避難所運営における課題

#### < 1. 運営組織に関するもの >

##### 1) 避難所運営スタッフの固定化

避難所を開設・運営する要員が限られたメンバーで固定化されており、避難所運営が24時間を超えるなど長期化する時の負担が大きすぎる。

各個人の負担が過多にならないよう、運営組織や業務分担の見直し、運営スタッフのローテーション化など実効性の高い運営マニュアルの改良が必要

##### 2) 各町内会からの支援要員確保

避難者が居住する町内からの運営要員がない場合、個別の事情などがほとんど分からず確認も難しいため、必要な対応がとれない。町内会の役員が常駐できない場合でも、連絡要員など支援要員を配置することで円滑な支援ができる体制が必要

#### < 2. 設備・資機材に関するもの >

##### 1) テレビの設置（早稲田集会所） ※対策済み

避難所では情報源としてテレビが有効だが、集会所にはテレビがなく、リアルタイムな情報入手ができず苦勞した。

避難所運営の途中からは小型のテレビが設置された。

##### 2) 防災備蓄倉庫が遠い場所に設置されている

早稲田集会所、早稲田公民館ともに防災備蓄倉庫がない（学区内には旧避難施設だった早稲田中学校、早稲田小学校に防災備蓄倉庫を設置）ため、避難者に毛布等を提供しようと思っても取りに行く必要がある。

#### < 3. 要支援者への配慮 >

##### 1) 要支援者名簿の確実な活用

災害時要支援者名簿の情報がきちんと活用されず、十分な安否確認や避難支援などが出来なかった。名簿の対象者への支援の徹底ができる仕組みが必要

##### 2) 障がい者トイレの未対応（早稲田集会所） ※対策済み

集会所のトイレが災害当時は障がい者対応になっておらず、車いす使用の避難者のトイレができずに困った。後日、改修して対応

##### 3) 福祉避難所の未活用

要介護の避難者がいたが、福祉避難所の存在を把握していなかったため、介護などに苦勞した。福祉避難所への要請、引き継ぎが円滑に行えるよう、運営要員の学習、訓練が必要

#### < 4. 運営資金の確保 >

##### 1) 避難所運営のための資金の確保

避難所を運営するうえで、自主防災連絡協議会がほとんど予算を持っていないため、軽微な物を調達するための資金が不足した。

様々な事態にすぐに対応できるよう、運営資金の確保が必要。

#### < 5. 避難所に関する情報発信 >

##### 1) 早稲田集会所の避難所利用に関する情報発信の不足

避難しようと考えた人が、早稲田集会所には「自動車で行けない」「ペットを連れては行けない」など正しくない情報で避難されなかった事例が確認された。

また、集会所の場所が分からず避難できなかった人もいたので、集会所への避難について正しい情報発信、場所の周知が必要

##### 2) 手ぶらで訪れる避難者への対応

非常持ち出し品や必要な物を持たずに避難所に来る避難者が、避難所で提供するものに不足があると不満を示す事例があった。地域住民へ非常持ち出し品を準備し、持参させるための周知が必要

## 6. 災害ボランティアの活動

牛田東四丁目で土石流により被災したMさん宅の復旧のため、災害ボランティアが活動を行った。今回は、東区災害ボランティアセンターの支援を受け、東区ボランティア、早稲田学区ボランティアが一体となって活動した。

- ◆開催日：1回目 10月27日（土）AM
- 2回目 10月28日（日）AM
- 3回目 11月10日（土）AM

◆場 所：牛田東4丁目 Mさん宅

◆参加者：

- 早稲田学区ボランティア 延べ17名
- 東区社協ボランティア 延べ14名
- 東区社協 延べ 8名

《実施内容》

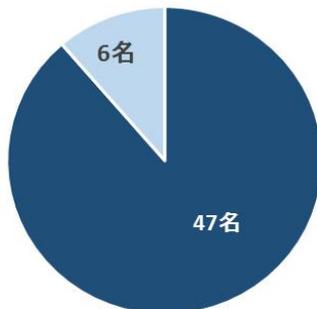
- ・ボランティアメンバーは、土砂撤去チームと家財運び出しチームに分かれて作業を行い、3日目で作業を完了してMさん宅の復旧をお手伝いした。



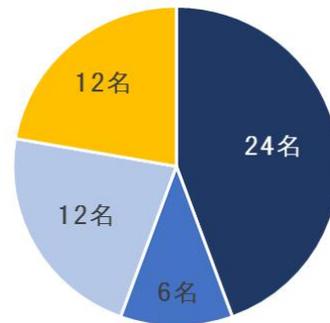
## 7. 防災アンケート調査結果

今回の災害を受け、学区内での防災意識や自主防災連絡協議会への活動への期待などを調査するため、公民館ふれあい祭りでアンケートを行った。以下は、調査結果の一部。

問1) 災害前に自宅危険度の把握していたか？ 問2) 災害時の避難先を決めていますか？

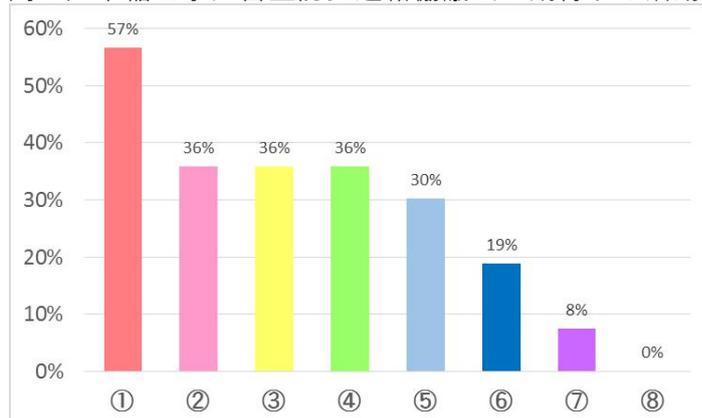


- 把握していた 89%
- 把握していなかった 11%



- 早稲田集会所など公的施設に避難 45%
- 知人宅など私的な場所に避難 11%
- 自宅（在宅避難） 22%
- 特に決めていない 22%

問3) 早稲田学区自主防災連絡協議会に期待する活動



- ① 防災訓練など実践的活動
- ② 講座やグループワークなど知識の取得
- ③ 高齢者向けの防災活動の充実
- ④ 子どもと一緒にできるイベントなど
- ⑤ メール・広報紙などの情報発信
- ⑥ 障がい者に配慮した防災活動
- ⑦ 避難所の運営方法の改善
- ⑧ その他